

2024年度 一般選抜 学力検査

# 世界史 B

FW2

世

解答番号  ~

【1】 次の文を読んで後の問いに答えなさい。

(配点 25 点)

ヨーロッパ各国を代表する飲食物といえは何だろうか。イタリアのトマトソース、パスタ、イギリスのフィッシュアンドチップス、スペインのパエリア、ベルギーのチョコレート、そしてフランスのワインやドイツのビールなどだろうか。しかし、これらのいずれもヨーロッパにはもともと存在しないものであった。トマトソースのトマト、フィッシュアンドチップスのジャガイモ、チョコレートの原料であるカカオ、これらはいずれも南米大陸原産で<sup>(a)</sup>大航海時代が<sup>(a)</sup>あって初めてヨーロッパにもたらされたものである。パエリアに使う米もヨーロッパ原産ではない。米を産む稲はアジアの温帯湿潤地帯の低湿地に生えていたとする説があり、もっとも古い稲栽培の記録が中国長江中・下流地域に集中して発見されていることから、この地でおそくとも前 5000 年ごろには稲の栽培が始まっていたと考えられている。その代表的な例が **A** 遺跡である。そして米は<sup>(b)</sup>南ヨーロッパに侵入したイスラーム勢力によって 10 世紀ごろにヨーロッパにもたらされたものなのである。

ワインはフランス料理に欠かせないアルコール飲料として定着しているが、地理的には<sup>(c)</sup>ヨーロッパとアジアの間に位置するカフカス地方で生まれたという説が有力である。ワインと同じくビールもヨーロッパ起源ではない。ビールは古代メソポタミアで初めて作られたものだと考えられている。<sup>(d)</sup>ハンムラビ法典にはビールについての条項が複数含まれていることから、古代メソポタミアにおいてビールがすでに重要な産物であったことをうかがい知ることができる。

ヨーロッパといえは、おしゃれなカフェを思い浮かべる人もいることだろう。カフェで飲まれるコーヒーの原産地としては、現在のところ<sup>(e)</sup>エチオピアがもっとも有力である。カフェ自体もオスマン帝国発祥であり、したがって、コーヒー文化はイスラーム文化がヨーロッパに伝わったものであったといえる。だから、イギリスの<sup>(f)</sup>コーヒーハウス、フランスのカフェやサロンといった都会人・文化人の交流の場は、イスラームなしにはありえなかったのである。商工業が盛んになっていった 17 世紀から 18 世紀にかけての時期、コーヒーの他にもタバコ、<sup>(g)</sup>茶、砂糖といった非ヨーロッパ起源の物品が貴族層だけでなく市民層にも広がり、こうして現代につながるヨーロッパの生活文化が形成されていったのである。

このように、ヨーロッパには非ヨーロッパ的なものが深く入り込んでいる。ヨー

ロッパの主要な宗教、すなわちキリスト教自体、<sup>(h)</sup>地中海東岸地域の南部に位置するパレスチナで誕生した宗教であり、その意味では非ヨーロッパの宗教である。そもそもヨーロッパという言葉自体が、**B** 語系のフェニキア人の言葉「エレブ」に由来するという説が有力である。「エレブ」とは「日が沈む土地」という意味である。フェニキアから見れば、西にあるヨーロッパは文字通り「日が沈む土地」として暗い場所、果ての地であり、その意味では文化・文明の中心地ではそもそもなかったのである。

問1 下線部(a)について、[1]大航海時代においてコロンブスがインドに行くつもりでアメリカに到達することになったのは、ヨーロッパから西に向かっていってもインドに到達できるとする地球球体説を信じていたということによる。地球球体説を唱えたフィレンツェ生まれの天文・地理学者は誰か。[2]大航海時代はヨーロッパに世界の様々な産物をもたらしただけではない。ヨーロッパ人が持っていた病原体を世界に広めたということも考えなければならない。ヨーロッパ人がアメリカ大陸およびその周辺に行き、先住民に未知の病原体を感染させることで莫大な数の先住民が犠牲になったが、そうした病原体の一つとして考えられるのが、天然痘ウイルスである。いまだウイルスの存在が知られていない時代に、天然痘ワクチンの接種ともいべき種痘法を開発した医学者は誰か。それぞれ、①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**1**・**2**。

[1] ① トスカネリ                      ② プトレマイオス                      ③ アリスタルコス

④ エラスムス                      ⑤ ガリレイ

**1**

[2] ① ラヴォワジエ                      ② ラプラス                      ③ ジェンナー

④ リンネ                      ⑤ ハーヴェー

**2**

問2 **A** に当てはまる、前5000年～前3000年頃のものと考えられている長江下流域の遺跡がある地域名はどれか。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**3**。

① 仰韶                      ② 竜山                      ③ 半坡

④ 河姆渡                      ⑤ 三星堆

問3 下線部(b)について、ヨーロッパに稲栽培が持ち込まれたルートとしては二つ考えられる。一つはイスラーム勢力がその大半を支配することがあったイベリア半島経由である。もう一つが文明の十字路とも呼ばれるように、古来様々な勢力がこの地で争い、イスラーム勢力も支配することがあったシチリア島経由である。[1]イスラーム勢力は8世紀のはじめにはイベリア半島のゲルマン人国家を滅ぼすまでになったが、その後キリスト教徒のレコンキスタが始まり、1492年には最後の拠点が陥落することで終焉を迎えた。この最後の拠点となったイベリア半島の都市はどれか。[2]古代ギリシアにおける覇権争いにおいてアテネがスパルタ中心の勢力と争い、結果的に破れる契機の一つになったのがアテネの軍勢のシチリア遠征の失敗であった。アテネのポリス社会が変質し崩壊に向かう契機となったこの戦争はどれか。[3]ヨーロッパ中世においてはシチリア島は12世紀ルネサンスの舞台の一つとなった。とりわけ、神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世の時代、シチリアはヨーロッパの文化的中心の一つとなった。フリードリヒ2世の王朝はどれか。それぞれ、①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、 ～ 。

[1] ① リスボン ② グラナダ ③ トレド

④ マドリード ⑤ セビリャ

[2] ① トロイア戦争 ② ペロポネソス戦争 ③ ペルシア戦争

④ ポエニ戦争 ⑤ 同盟市戦争

[3] ① ザクセン朝 ② カロリング朝 ③ ノルマン朝

④ ルクセンブルク朝 ⑤ シュタウフェン朝

問4 下線部(c)について、カフカス地方は北方のロシアの勢力と南方のイランの勢力との争いの地になることがしばしばあった。第2次イラン=ロシア戦争の結果として現在のアルメニアの大半をロシアに割譲することになった1828年に結ばれた条約はどれか。次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は、。

① サン=ステファノ条約 ② イリ条約 ③ ヌイイ条約

④ トルコマンチャーイ条約



問8 下線部(g)について、茶は18世紀のイギリスでは一種の必需品になり、その輸入のため中国(清)との貿易は常に赤字を計上するようになっていた。そのため、イギリスはマカートニーを派遣して清の皇帝に対して貿易関係の改善を求めさせた。マカートニーが謁見した清の皇帝は誰か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**11**。

- ① 乾隆帝                                      ② 道光帝                                      ③ 嘉慶帝  
④ 雍正帝                                      ⑤ 康熙帝

問9 下線部(h)について、この地中海東岸の北部に位置するシリアは南の新王国時代のエジプトと北方のヒッタイトの抗争の地であった。新王国およびヒッタイトに関する記述として誤っているものはどれか。次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は、**12**。

- ① 新王国のラメス2世とヒッタイトの王ムワタリがシリアのカデシュで戦った。  
② 新王国のアメンホテプ4世は宗教改革のため、首都をテーベからテル=エル=アマルナに移した。  
③ ヒッタイトは鉄製の武器を用い、また馬と戦車を駆使することで新バビロニアを滅ぼした。  
④ 「海の民」と総称される諸民族集団が侵入したことをきっかけにヒッタイトは滅亡し、新王国も衰退した。

問10 **B** に当てはまる、言語集団を表す語句はどれか。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**13**。

- ① アルタイ                                      ② セム                                      ③ ウラル  
④ ドラヴィダ                                      ⑤ インド=ヨーロッパ

【2】 次の文を読んで後の問いに答えなさい。(配点 25 点)

イスラーム以前のアラビア半島はどのような状況だったのだろうか。ムハンマドがアッラーの啓示を受けたとして述べた言葉を集めた『コーラン (クルアーン)』を見るならば、そこには<sup>(a)</sup> モーセもイエスも出てくる。そこから分かるのは、ムハンマドの周囲にユダヤ教徒もキリスト教徒もいたということである。

アラビア半島およびその周辺は、政治的には<sup>(b)</sup> ササン朝ペルシアと<sup>(c)</sup> ビザンツ帝国とが争いと和解を繰り返していた。そうした中、メッカに生まれたムハンマドは、7世紀の初めに神の啓示を受けたとしてイスラームの教えを説き始めたが、メッカではなかなか受け入れられず、彼の教えを信じる人々とともにメディナに移った。これをイスラームでは聖遷といい、この聖遷によって **A** が成立したと考えられている。そのこともあり、聖遷の年、622年がイスラーム暦の元年となっている。以後、メディナを根拠地にムハンマドは次第に信者を増やし、630年にメッカを征服した。

632年にムハンマドは没するが、その後の正統カリフの時代においてもイスラームの勢力は膨張し続けた。642年、イスラームの軍は **B** でササン朝を破り、その後間もなくしてササン朝は滅亡した。正統カリフの時代は、第4代アリーの暗殺をもって終わった。アリーと対立していたムアーウィヤがウマイヤ朝を開き、8世紀初めに活発な征服活動を展開した。東方ではインドとソグティアナまで版図を広げ、西方では北アフリカからさらにはイベリア半島にまで進出し、711年には **C** を滅ぼした。フランク王国にも進出を図ったが、732年の<sup>(d)</sup> トゥール・ポワティエ間の戦いで阻止された。一方、暗殺されたアリーを支持していた人々はその後も、アリーとその子孫だけがムハンマドの正統の後継者であるとする立場をとり続けた。<sup>(e)</sup> このグループはシーア派と呼ばれ、現在まで続いている。

8世紀半ば、アッバース家による反ウマイヤ朝運動が起こり、749年、アッバース家のアブー=アルアッバースがカリフを称し、翌750年にはウマイヤ朝を倒し、<sup>(f)</sup> アッバース朝が開かれた。

問1 下線部(a)に関する記述として正しいものはどれか。次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は、**14**。

- ① イスラエル人を導き「出エジプト」を果たした。
- ② イエルサレムを首都としたイスラエル王国を強勢に導いた。
- ③ ヤハウエ神殿を築き、最高の智者と称えられた。
- ④ バビロン捕囚に際し、神と契約したユダヤ人こそ選民であり、救われるとする預言を行った。

問2 下線部(b)について、[1]ササン朝建国の王は誰か。[2]ササン朝に関する記述として正しいものはどれか。[3]エフェソス公会議では退けられ異端とされたが、ササン朝のもとでは活動を許され、その後中国にも伝わったキリスト教の宗派はどれか。それぞれ、①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**15**～**17**。

- [1] ① シャープール1世      ② ダレイオス1世      ③ ホスロー1世  
④ アルダシール1世      ⑤ ミトラダテス1世

**15**

- [2] ① ペルセポリスを首都とした。  
② エデッサの戦いでローマ皇帝トラヤヌスを捕虜にした。  
③ 『アヴェスター』を教典とするマニ教を国教とした。  
④ エフタルと同盟して突厥を滅ぼした。  
⑤ 東方ではクシャーナ朝を破り、その結果クシャーナ朝は衰退した。

**16**

- [3] ① アタナシウス派      ② アリウス派      ③ ネストリウス派  
④ カタリ派      ⑤ ストア派

**17**

問3 下線部(c)について、[1]ビザンツ帝国皇帝として、ローマ帝国の栄光回復に努めたユスティニアヌス1世(大帝)に関する記述として誤っているものはどれか。[2]11世紀には、有力な貴族層に対し、軍役奉仕の代償として本人一代に限り国有地の管理権と国税収入を与える制度が始まった。この制度の名称はどれか。[3]1453年、コンスタンティノープルを占領することでビザンツ帝国を滅亡させたオスマン帝国スルタンは誰か。それぞれ、①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**18**～**20**。

[1] ① ハギア=ソフィア聖堂を再建した。

② 聖像禁止令を出し、ローマ教会との対立を深めた。

③ 内陸アジアから養蚕技術を導入し、絹織物産業を育成した。

④ 将軍ベリサリオスに、ヴァンダル王国を滅ぼさせた。

⑤ ローマ法を集大成した『ローマ法大全』を編纂させた。

**18**

[2] ① プロノイア制            ② テマ制                    ③ イクター制

④ エンコミエンダ制    ⑤ アシエンダ制

**19**

[3] ① セリム1世            ② バヤジット1世            ③ メフメト2世

④ セリム2世            ⑤ スレイマン1世

**20**

問4 **A**に当てはまる、アラビア語で共同体、特に宗教に立脚した共同体を指す語句はどれか。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**21**。

① ハディース            ② マワーリー            ③ ズィンミー

④ ウンマ                ⑤ シャリーア

問5 **B**に当てはまる戦いはどれか。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**22**。

① イッソスの戦い            ② アルベラの戦い            ③ アンカラの戦い

④ カタラウヌムの戦い    ⑤ ニハーヴァンドの戦い

問6 **C**に当てはまる、ゲルマン人の王国はどれか。次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は、**23**。

① 東ゴート王国            ② 西ゴート王国            ③ ブルグンド王国

④ ランゴバルド王国

問7 下線部(d)について、この戦いで勝利し、イスラーム軍の進出を阻止したフランク王国の宮宰は誰か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**24**。

- ① ピピン (小ピピン)      ② クヌート      ③ エグバート  
④ カール=マルテル      ⑤ クローヴィス

問8 下線部(e)について、現在、シーア派の拠点となっているのはイランである。シーア派の聖職者で1979年のイラン革命を主導し、成立したイラン=イスラーム共和国でその最高指導者となったのは誰か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**25**。

- ① サダム=フセイン      ② ビン=ラーディン      ③ アラファト  
④ アフマディネジャド      ⑤ ホメイニ

問9 下線部(f)について、[1]アッバース朝の統治に関する記述として正しいものはどれか。[2]946年、バグダードに入城し、カリフから大アミールの称号を得て、アッバース朝を傀儡化した王朝はどれか。それぞれ、①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は、**26**・**27**。

- [1] ① アラブ人のみがワジールと呼ばれる大臣の地位に就くことができた。  
② 征服地の先住民は、イスラームに改宗してもジズヤ (人頭税) とハラージュ (地租) を課せられた。  
③ アラブ人は、アターと呼ばれる俸給を受け、免税特権も有していた。  
④ アッバース朝樹立に協力したシーア派は、政権樹立後は弾圧された。

**26**

- [2] ① サーマーン朝      ② ブワイフ朝      ③ トゥールーン朝  
④ ファーティマ朝

**27**

【3】 次の文を読んで後の問いに答えなさい。

(配点 25 点)

フランスのブーガンヴィルは 1766 年に世界周航に出発した。これにやや遅れ、1768 年にイギリスのクックが、その第 1 回目の世界周航に出発する。ブーガンヴィルとクックには、共通点がいくつかある。ともに (a) 七年戦争（北米大陸での戦いはフレンチ=インディアン戦争と言われる） をカナダでそれぞれフランス軍、イギリス軍の軍人として経験し、世界周航においても南米大陸の南端のティエラ・デル・フエゴ（フエゴ島）と太平洋の (b) タヒチ をともに訪れている。

ただ、クックはブーガンヴィルよりもはるかに広範囲に航海し、しかも綿密な測量・観察を行った。第 1 回目の航海（1768～1771）では (c) ニュージーランドを周回し遭難の危険を冒しながらオーストラリア東岸を航海し、現地の先住民の言語を収集したりもしている。 さらに、ニュージーランドとオーストラリアのいずれにおいても、イギリスの国旗を立て、(d) イギリス国王の名において領有宣言 をしている。2 回目の航海では南極圏にまで南下し、3 回目の航海では太平洋を北上し、現在の (e) ベーリング海峡 を通り、北極海にも入ったが、その帰途、1779 年 2 月に、ハワイ島で先住民と争い、死亡した。

19 世紀に入ると、太平洋・オセアニアの欧米各国による分割競争は激化した。イギリス、フランスにドイツやアメリカも加わって、この地域での分割競争が激しくなった。ドイツは、1884 年、ニューギニアに進出し一部領有するとともに、メラネシアのビスマルク諸島も領有した。さらにスペインから (f) マリアナ諸島 を 1899 年に買収した。アメリカは 19 世紀末には積極的な進出策を採るようになり、(g) 1898 年のアメリカ=スペイン戦争での勝利 によって、太平洋地域では、(h) フィリピンとグアム を獲得し、さらに同年ハワイを併合した。

問1 下線部(a)について、[1]七年戦争は世界規模で戦われた。ヨーロッパ大陸では、オーストリアとプロイセンが主に戦ったが、それぞれに他のヨーロッパの国々が支援した。この戦争に関わった主要国の組み合わせとして正しいものはどれか。[2]七年戦争の時期以前から、インドでもイギリスとフランスは戦っていた。1744年に始まり、七年戦争の終了した1763年まで3度にわたって戦われ、イギリスのインドにおける優位を決定づけた戦争の総称を何というか。[3]一部の島を除いて、イギリスがカナダを領有することを認めた1763年に締結された七年戦争の講和条約はどれか。それぞれ、①～⑥の中から一つ選びなさい。解答番号は、解答番号は、28～30。

- [1] ① オーストリア側にはイギリスとロシアが、プロイセン側にはフランスとスペインがついた。
- ② オーストリア側にはスペインとロシアが、プロイセン側にはフランスとイギリスがついた。
- ③ オーストリア側にはフランスとロシアが、プロイセン側にはイギリスとスペインがついた。
- ④ オーストリア側にはイギリスとスペインが、プロイセン側にはフランスとロシアがついた。
- ⑤ オーストリア側にはフランス・ロシア・スペインが、プロイセン側にはイギリスがついた。
- ⑥ オーストリア側にはイギリスが、プロイセン側にはフランス・ロシア・スペインがついた。 28

- [2] ① マラーター戦争                      ② シク戦争                      ③ アチェ戦争
- ④ カーナティック戦争                  ⑤ マイソール戦争              ⑥ アン女王戦争 29

- [3] ① ユトレヒト条約                      ② アーヘン条約                  ③ パリ条約
- ④ ラシュタット条約                      ⑤ カトー=カンブレジ条約
- ⑥ カルロヴィッツ条約 30

問2 下線部(b)について、タヒチは19世紀半ば以降フランスが領有するところとなり、第二次世界大戦後はフランス領ポリネシアに属している。[1]19世紀末、ヨーロッパ文明を嫌悪し、タヒチに移り住んだフランス後期印象派の画家は誰か。[2]第二次世界大戦後、フランスは核開発を進め、1960年からサハラ砂漠で核実験を行っていたが、アルジェリアの独立後、1966年からはこのフランス領ポリネシアのムルロア環礁などで核実験を行うようになった。以後、1996年までこの地域での核実験が繰り返された。1959年大統領に就任すると、「フランスの栄光」を掲げ核開発を進めるとともに中国承認など独自の外交を進めたが、1968年の五月危機で権威を失い、翌年辞任したフランス大統領は誰か。それぞれ、①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**31**・**32**。

- [1] ① ゴッホ                      ② ゴーガン                      ③ セザンヌ  
       ④ モネ                              ⑤ ルノワール                      **31**
- [2] ① オスマン                      ② ブルム                              ③ ミッテラン  
       ④ ド=ゴール                      ⑤ クレマンソー                      **32**

問3 下線部(c)について、[1]ニュージーランドの先住民は何と呼ばれるか。[2]17世紀半ば、クックに先駆けてニュージーランドやオーストラリアに到達していたオランダの航海者は誰か。それぞれ、①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**33**・**34**。

- [1] ① マオリ人                      ② アラム人                              ③ フルリ人  
       ④ モン人                              ⑤ クルド人                              **33**
- [2] ① ピアリ                              ② ドレーク                              ③ タスマン  
       ④ ホーキンス                      ⑤ カブラル                              **34**

問4 下線部(d)について、このときの国王はジョージ3世で、在位は1760年から1820年までの長きにわたった。この国王在位の時期のイギリスに関する記述として誤っているものはどれか。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**35**。

- ① 腐敗選挙区の廃止、新興都市への議席割り当て、中産階層の参政権獲得などを盛り込んだ第1回選挙法改正が行われた。
- ② アメリカ13植民地が反乱を起こし、アメリカ側の言う「独立戦争」に敗北し、イギリスは独立を認めざるを得なかった。
- ③ ワーテルローの戦いでウェリントン率いるイギリス軍はプロイセン軍・オランダ軍と協力してナポレオンを破った。
- ④ アイルランドの併合にともない、それまでの大ブリテン王国が大ブリテン＝アイルランド連合王国と改称された。
- ⑤ フランス革命に対し、イギリスのピット首相の呼びかけで第1回対仏大同盟が結成された。

問5 下線部(e)について、この海峡の名称は、デンマーク出身のロシアの探検家の名にちなんでいる。この探検家にユーラシア大陸とアメリカ大陸間の地域の探検を命じたロシア皇帝は誰か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**36**。

- ① アレクサンドル1世      ② イヴァン3世      ③ イヴァン4世
- ④ エカチェリーナ2世      ⑤ ピョートル1世

問6 下線部(f)について、[1]1899年当時のドイツ皇帝は積極的に対外進出を進めたヴィルヘルム2世である。この皇帝の治世期、ドイツとフランスの間の緊張を高めることになった、2度にわたって起きた事件はどれか。[2]マリアナ諸島は第一次世界大戦後は日本の委任統治領となった。第二次世界大戦では、この諸島の一つに1944年7月アメリカ軍が上陸し、日本軍守備隊は全滅した。その陥落の責任を取って東条英機内閣が総辞職し、以後、アメリカ軍の日本本土爆撃の基地が置かれたこの島はどれか。それぞれ、①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は、**37**・**38**。

- [1] ① ファショダ事件      ② モロッコ事件      ③ アンボイナ事件  
④ カノッサ事件

**37**

- [2] ① サイパン島      ② ルソン島      ③ ガダルカナル島  
④ レイテ島

**38**

問7 下線部(g)について、アメリカ=スペイン戦争の時のアメリカ大統領で1901年に無政府主義者に暗殺された人物は誰か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**39**。

- ① セオドア=ローズヴェルト      ② ウッドロー=ウィルソン      ③ タフト  
④ マッキンリー      ⑤ ジャクソン

問8 下線部(h)について、フィリピンではアメリカ=スペイン戦争以前から独立の機運が高まっていた。スペイン留学経験があり、帰国後、カティプーナンの蜂起への関与を疑われ、1896年に逮捕、銃殺された知識人は誰か。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**40**。

- ① アギナルド      ② マルコス      ③ マハティール  
④ コラソン=アキノ      ⑤ ホセ=リサール

【4】 次の文を読んで後の問いに答えなさい。

(配点 25 点)

(a) 毛沢東は、「大躍進」政策の失敗によって 1959 年 国家主席を辞任したが、権力を取り戻すために (b) 文化大革命 (プロレタリア文化大革命) を発動した。彼に代わって 国家主席となっていた **A** を始めとする人々を追い落とすための権力闘争であった。しかし、こうした権力闘争の最中であっても外交努力は続けられていた。1971 年、国連代表権が台湾の 中華民國政府から 中華人民共和国に移ったこと、翌 (c) 1972 年 2 月ニクソン訪中が行われ、それを受けた形で同年 9 月の日本の **B** 首相の訪中で日中国交正常化が実現したことなどが、この時期の外交的成果としてあげられるだろう。

文化大革命の終焉ののち、実権を握ったのは鄧小平だった。彼の指導下、1978 年には (d) 改革・開放政策が始まり、1979 年には (e) アメリカとの国交回復も果たされた。ただ、同年には (f) 中越戦争が起こっている。

1980 年代、改革・開放政策が進むにしたがって腐敗や人権抑圧、沿海部と内陸部の格差など様々な問題が噴出してきた。これを民主化の遅れによるものだとする学生・青年労働者が 1989 年、北京で民主化要求運動を起こしたが、鄧小平はこれを弾圧した。いわゆる (g) 天安門事件 (すでに 1976 年にも天安門広場で事件が起こっていたので、第二次天安門事件ともいう) である。この事件によって欧米諸国は経済制裁を中国に課し、そのため一時的に中国は国際的に孤立する状況に陥った。

1990 年代に入ると、中国は孤立状況から脱し、世界との関わりを深めていく。まず、1992 年、(h) 盧泰愚大統領の韓国と国交を樹立した。また、すでに 1984 年、鄧小平は、イギリスの (i) サッチャー首相との間で、(j) 香港返還についての合意を取り付けていたが、香港返還が実現する前に、鄧小平は 1997 年 2 月に死亡した。香港が返還されたのは同年 7 月であった。この流れを受けて、1999 年には (k) マカオも中国に返還された。少し遡るが、1997 年には、ASEAN に日本・韓国・中国が招待される形での ASEAN + 3 も始まり、アジアとの緊密化も進んだ。さらに長年の交渉の結果、2001 年 12 月に中国は、GATT のウルグアイ=ラウンドで設立が決まり、1995 年に発足した世界貿易機関 (WTO) への加盟を果たし、世界経済と中国経済の関係はさらに緊密なものになった。中国の行方を注視する必要があるだろう。







問12 下線部(j)について、アヘン戦争の結果を受けてイギリスが香港を領有することを認めた1842年の清とイギリスの条約はどれか。次の①～⑤の中から一つ選びなさい。解答番号は、**52**。

- ① 南京条約                      ② 天津条約                      ③ 北京条約  
④ 黄埔条約                      ⑤ 望厦条約

問13 下線部(k)について、19世紀以来このときまでマカオを領有していた国はどれか。次の①～④の中から一つ選びなさい。解答番号は、**53**。

- ① ポルトガル                      ② オランダ                      ③ スペイン  
④ フランス